



れんかくより



呼吸器外科の紹介



副院長
呼吸器外科部長
磯和 理貴

当院の呼吸器科の開設は1963年ですが、当初は呼吸器内科疾患の患者さんが対象でした。1991年3月に呼吸器外科医師が部長として着任し、以来当院の呼吸器科は呼吸器内科医師と呼吸器外科医師が合同で、呼吸器疾患全般の治療に取り組んできました。

2003年4月に磯和が呼吸器科部長として着任し、2004年4月に呼吸器内科と呼吸器外科に分かれだからも、この診療姿勢は続いており、徳安宏和呼吸器内科部長と力を合わせて患者さんの診療にあたっています。呼吸器外科の専任スタッフは現在は2名ですが日々増える予定があります。

対象疾患は、肺癌、気胸、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、膿胸などの炎症性疾患、胸部外傷、手掌多汗症などです。また胸腔鏡、縦隔鏡を用いた各種肺疾患の診断、気道疾患のレーザー治療、ステント治療を行っています。2003年4月から2013年12月までの11年間の呼吸器外科の全身麻酔手術件数は1,097件で、その内訳は、原発性肺癌が45.8%、転移性肺腫瘍が9.9%と悪性疾患が約55%を占めて

おり、肺悪性腫瘍の診療にもっとも力を入れています。

島根県は周知のとおり、全国でも有数の高齢化地域で、「2013年高齢社会白書」によれば、65歳以上の人口が全体の30.0%を占めており、これは秋田県、高知県とならんで全国トップ3です。

肺癌も高齢者の病気で、この11年間に当科で肺癌手術を受けられた患者さんのうち、70歳代が38.1%、80歳代が17.2%で、なんと70歳以上が55%以上を占めていました。こうした高齢の方々は、心臓疾患、糖尿病、腎疾患など多くの合併症をかかえている方がほとんどです。こうした患者さんを単に手術して病巣を切除するだけでなく、無事に術前どおりの日常生活がおくれるように自宅へおかえりいただくには、呼吸器外科、呼吸器内科だけでなく、他の診療科の専門医集団の協力が必要です。幸い当院には松江圏域では随一、島根県全体を見渡しても質、量ともにトップクラスの専門医が揃っており、麻酔科、ICUのスタッフも充実しており、さまざまな合併症を有する患者さんを治療するのにふさわしい環境があります。

医療は総合力です。どうか肺癌をはじめとする肺疾患の治療は当院におまかせください。



ペースメーカー患者の新しい管理

【ホームモニタリングシステム】

遠隔モニタリングシステムについて

臨床工学課 係長 福田 勇司

ペースメーカーの植込みをおこなった患者様はペースメーカーの作動状況の確認の為に定期的に受診が必要です。当院もペースメーカー外来を1997年に立ち上げ、それ以降週一回でおこなっています。

しかし近年、デバイスの植込みをおこなった患者様の増加にともない外来診療にかかる時間も増加傾向になってきていましたし、診療時間の延長は外来診療に訪れる患者様の待ち時間の延長にもつながってきました。また、島根県は離島（隠岐の島）も含み、東西に長く（約250Km）患者様にとっては前日から泊まり込み、移動時間を合わせると一日かかってしまうことも珍しくありません。御高齢の方が多いため付き添いの方にも同じように負担をかけていました。このような現状をどのように改善をしていくのかが当院での大きな課題でした。

この現状を改善する一つの手段として遠隔モニタリングシステムを導入しました。



遠隔モニタリングシステムとは、植込型ペースメーカーに外部接続機能を持たせ、患者様は自宅で専用の送信機にケーブル接続し、ペースメーカー内に蓄積されたデータを吸い上げ、電話（有線および無線）回線経由での各メーカーのサーバーにデータを蓄積、これを医療機関で管理できるシステムです。さらに定期的なデータ送信の他に、心臓に異常が出た場合の緊急のアラート（警告）の送信も可能あります。遠隔モニタリングシステムを利用し、外来受診前にデバイスデータを把握することで、患者様の来院に先立ち、デバイス機能チェック・不整脈解析をおこない、当日の診療時間を軽減することができました。また同時に、システムを活用することで、定期検診の回数削減へつながりました。

導入される患者様の中には、送信機の設置をすることに対して抵抗を感じたり、外来診療回数の削減は病院との関係が疎遠になるという懸念を感じている方もおられました。このような方には、当院での外来の現状を説明し、通院回数（移動/外来待ち時間）の軽減によって患者様自身に生み出される時間的ゆとりについて説明をおこないました。

今後、植え込み患者様の増加、高齢者社会、地域医療促進に対応していくには遠隔モニタリングシステムがなくてはならないと思われます。これからも遠隔モニタリングシステムを有効活用し、地域の皆様へより質の良い医療が提供できればと考えております。

新任医師紹介

NEW FACE



麻酔科

宮本 達人

【2014/5/1採用】



神経内科

山田 真悠子

【2014/5/1採用】



循環器内科

吉岡 悠太郎

【2014/5/12採用】

5月1日より赴任いたしました宮本達人と申します。個々の患者様にあった麻醉を心がけております。よろしくお願い致します。

皆様、初めまして。いつも明るく元気よくモットーに、この地の医療の一端をしっかりと担っていきたいと考えております。宜しくお願い申し上げます。

生まれ育った松江に14年ぶりに帰って参りました。地域医療に貢献できるよう精進いたします。宜しくお願いします。

CPXについて

心臓リハビリテーション

当院では、心筋梗塞や心臓手術後等の心臓病の患者さんを対象に積極的な運動指導を行っています。その指導に当たっては、CPX (cardiopulmonary exercise test) という検査を行います。CPXについて紹介させて頂きます。

CPXはマスクを装着した状態でトレーニング用の自転車（エルゴメータ）を漕いで頂く検査です。自転車のペダルが徐々に重くなりますが、一定の回転数で漕いで頂いて、ATを測定します。ATとはAnaerobic Threshold の略で、無酸素性作業閾値や嫌気性代謝閾値と訳されています。

私たちの体では、軽い運動を行っている時に主に酸素を使ったエネルギー代謝が行われ、酸素を1使えば二酸化炭素を1出すという状態になっています。運動負荷がきつくなると、酸素を使わないエネルギー代謝が加わり、結果として酸素に比べて二酸化炭素を出す量が増えます。

マスクを装着して酸素と二酸化炭素の出入りを調べることができますので、徐々に重くなるペダルを漕いでいくことで、ちょうど二酸化炭素が増え出すところ、酸素を使わない代謝が加わるポイントが分かります。そのポイントがATです。ATレベルの運動は心臓に大きな負担をかけず、安全に行えると言

リハビリテーション課

呼吸・心臓リハビリテーション係長 福山直樹

われています。

従って、CPXでATを測定することで、安全に行える運動強度の上限が分かるので、退院後に自分で運動を行う際の目安となります。ATレベルの運動を続けることで、運動に対する不安感の軽減、運動耐容能の向上等が期待できます。



いきいき健康講座で 秦公平院長が講演

地域医療連携課長 齊藤文章

去る5月29日（木）淞北台団地の淞北台会館にて約100名近い住民の参加を得て、「第50回記念特別企画 いきいき健康講座 高齢社会における地域医療について」と題した講演会が開催されました。講師には秦公平院長とよねだ内科米田治彦院長が招かれ、秦院長か

らは国の医療政策について、国の考えるビジョン、地域連携について、当院の役割などについて講演がありました。続いて米田治彦院長からは、かかりつけ医の役割や、紹介・逆紹介による病院、診療所との連携について、地域連携クリティカルパスによる連携などについて講演がありました。地域住民の皆さんには、病院と診療所との連携を感じて頂ける機会になつたのではないかと感じております。主催頂きました「いきいきライフを推進する会」の皆様には紙面をかり御礼申し上げます。

平成
26
年度

第1回 地域医療支援病院運営委員会

を開催しました

6月12日(木)午後1時30分から「平成26年度第1回地域医療支援病院運営委員会」を開催しました。事務局からは救急外来や外来患者、入院患者の動向について、ドクターへリや防災へリによる搬送状況、地域の医療従事者に向けた研修会の開催状況などについて報告しました。委員の皆さまからは患者動向について、研修会の内容についての質問や市民向け研修会の広報の仕方などについてのご意見を頂きました。



第4回

松江赤十字病院 地域連携 サイエンス 漢方 处方研修会

日時 平成26年 9月12日(金)
18:00~20:00

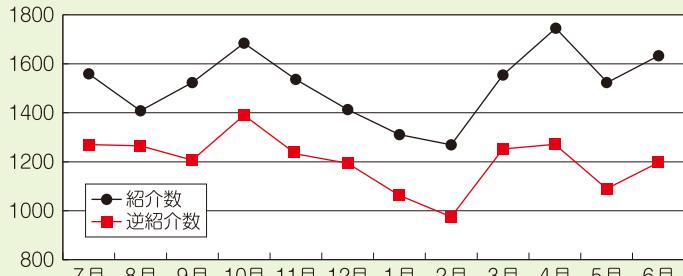
会場 松江赤十字病院 本館6階 講堂
松江市母衣町200 TEL:0852-24-2111

【特別講演】 演題:『痛みの漢方治療』

講師:静仁会静内病院 院長 井齋偉矢先生

申し込み先:松江赤十字病院 地域医療連携課 TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

紹介・逆紹介件数



ご紹介ありがとうございました。



松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261